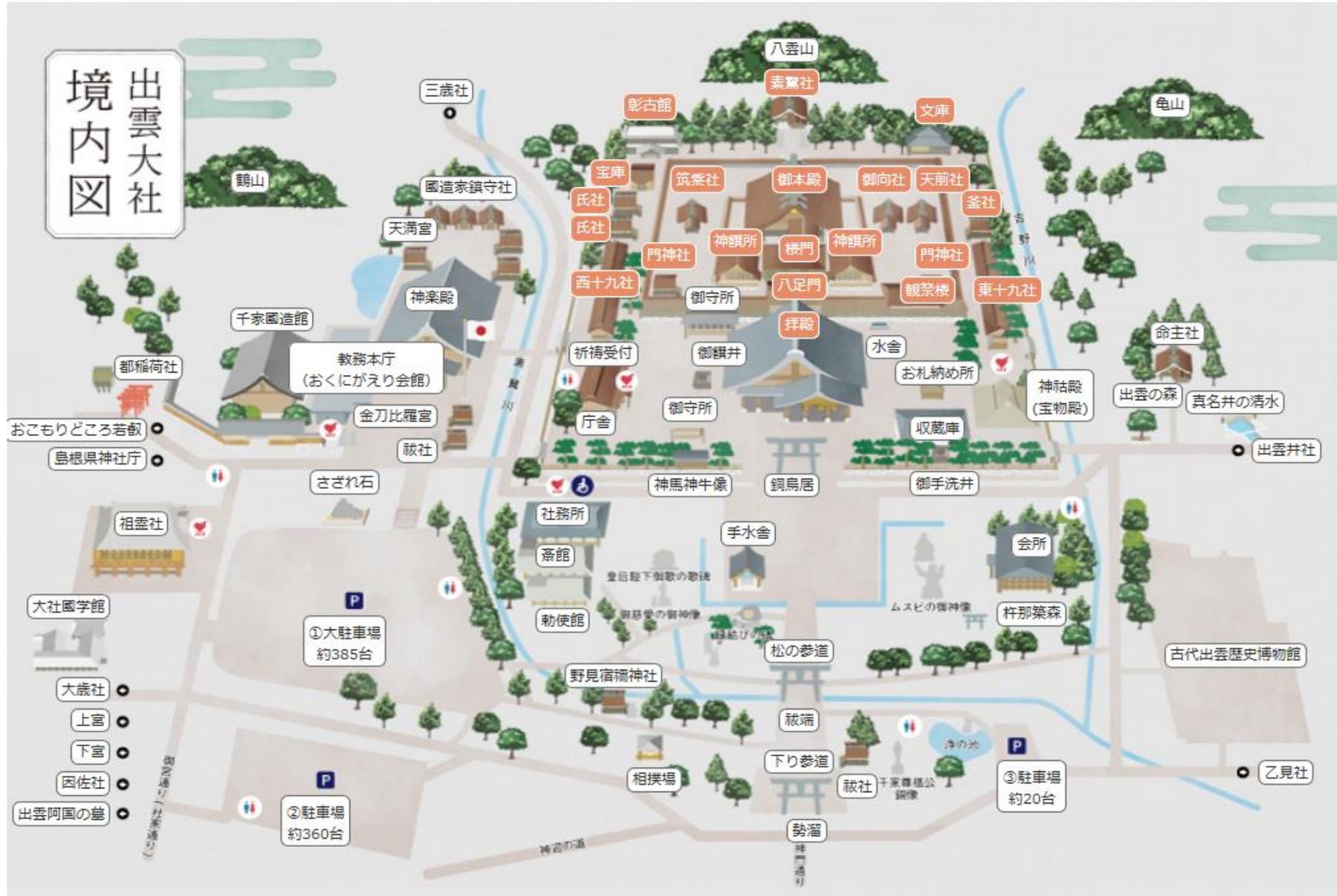


# 出雲大社(出雲市)

出雲大社ホームページより





ここは手前左手にある出雲大社教の祖霊社



大國主大神の御神徳を布教する神道教団とのこと





6世紀に国造として出雲を支配した首長の居館は神魂神社のすぐ近くに所在した/その末裔が出雲大社の宮司職を代々受け継いでいる

## 出雲国造館跡推定地

国造とは、「大化の改新」（645年）以前に畿内の王権が、各地の支配者に与えた称号です。一般的には大化の改新によって廃止され、律令国家の地方行政官は中央派遣の国司となり、多くの国造は郡司となりました。

しかし、出雲国造は熊野大社・杵築大社の「神郡」である意宇郡の郡司として力を持ち、国内の神社の祭祀を行っていました。また、就任にあたっては国造が都に赴いて大極殿で天皇を寿ぐ神賀詞奏上儀礼を行うなど、特殊な扱いを受けていました。

もともと出雲国造は、現在の松江市大庭町周辺を本拠としていました。その後、意宇郡兼帯の停止や神郡の廃止・神賀詞奏上儀礼の終焉などを契機に、10〜11世紀頃には杵築（現在の出雲市大社町）へ移ります。

杵築へ移った後も、新嘗祭や火継神事（国造の代替わりの神事）など、重要な祭祀を執り行うため、大庭の地へ参向していました。そのため、神魂神社の参道周辺に宿館を構えていました。古代の国造館の位置は判然としませんが、江戸時代には字「土居」の場所に北島国造家の館、字「向」には千家国造家の館があったことが分かっています。

このように「大庭」は、出雲国造にとっても、出雲全域にとっても重要な役割を担った場所でした。



明治8年大庭村絵図をトレースの上、現在の道路を黒線で表示

出雲国造館跡推定地の風景



右手には日本一大きな日章旗がはためく



その前方は神楽殿



正面には日本最大級の大注連縄(長さ13.6m、重さ5.2t)がある



大注連縄を潜った所



振り返って大注連縄を見る



さて、右手は拝殿



左手を見ると、本殿の屋根が少しだけ見える/『古事記』・『日本書紀』によれば、「大国主大神」の国譲りに際して、底つ磐根に宮柱を深く立てた壮大な宮殿を造られたのが出雲大社の始まりらしい/『出雲国風土記』には、大国主大神のために大勢の神々が集まって宮を寸付(きづき)いたと記されており、「杵築(きづき)大社」ともいわれていると云う



これは八足門(やつあしもん)/寛文7年(1667年)の造営の際に建立されたと云う/重要文化財



門内部の鴨居部分上部の墓股や欄間などには、流水を基調とした中に紅葉や桜、鳥など花鳥風月が散りばめられている



柱には木目の美しいケヤキ材を用いるなど、境内の中でも豊かな装飾を持つ門



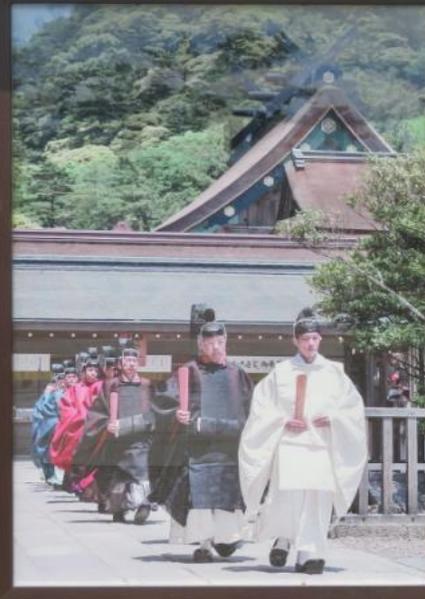
この先に楼門がチラッと見える/重要文化財



出雲大社は、少なくとも8世紀には大きな社が建てられていたといわれ、平安時代中頃の『口遊(くちずさみ)』に当時の大建造物を示す記述があり、出雲大社が最も大きく、次いで奈良の大仏殿、3番目に京都の大極殿の順とのこと/2000年に本殿の南側で鎌倉初期の造営と推定される三本一組の巨大な柱根が発掘され、巨大な神殿の存在を裏付ける発見となった/現在の境内は、江戸時代前期、寛文7年(1667年)の造営遷宮で計画されたもので、今もその時の建物が多く残っているらしい/現在の本殿など瑞垣内の社は、その次の延享元年(1744年)の造営遷宮で建て替えられたものと云う



## 国宝 出雲大社御本殿



### 出雲大社「平成の大遷宮」

現在、出雲大社では60年に一度の廻りの御遷宮をお仕えいたしております。去る平成20年4月20日、「仮殿遷座祭」を斎行して御祭神大國主大神さまには御仮殿にお遷りいただき、以来、国宝御本殿をはじめ境内諸建造物の御修造を行っております。瑞垣内では平成24年度末にかけて伝統の匠の技により大屋根の葺き替えなどの御修造諸工事を行い、御本殿御修造がととのった平成25年5月10日、麗しく廻った御本殿へ大國主大神さまがお遷りになる「本殿遷座祭」を斎行いたしました。

中央前方が本殿/国宝



出雲大社本殿は大社造と呼ばれ、伊勢神宮の神明造とともに神社建築の二大源流/延享元年(1744年)の建立



時計回りに見て歩く







これは同じ大社造の神魂神社(松江市大庭町)/こちらは全体像が良く分かる



これは彰古館/登録有形文化財/1階には大黒様・恵比寿様の像が展示され、2階には出雲大社の信仰に関する資料が展示されているとのこと



これは素鷲社(そがのやしろ)/大国主大神の親神、素盞鳴命が鎮座している境内摂社



これは四隅突出型墳丘墓(墳丘墓とは古墳時代(3世紀中頃~)よりも前の弥生時代に築造されたもの)の分布を示したもの/出雲周辺の西谷墳丘墓から、日本海沿岸のルートにのって富山県付近まで伝播していることが見て取れる/山陰地方東部から北陸地方南部にかけての首長の間強い結びつきがあり、政治的勢力の同盟関係があったのではないかと推測できるとも云う/これは古代出雲文化圏とでもいべきものが存在していたことを物語るようだ/だが、弥生時代から古墳時代に入る頃になると、この出雲周辺からも四隅突出型墳丘墓は築造されなくなっていく/出雲王(出雲周辺に大きな力を持った首長)の末裔はどこへ行ったのであろうか/そしてその頃(3世紀半ば)、畿内では大型の前方後円墳である箸墓古墳が築かれる/古墳時代の始まりである/そして出雲周辺では小規模な方墳や円墳といった古墳が築造されはじめる/これは何を意味するのであろうか/考古学的にも出雲の国譲り神話と符合してくるようだ



## 参考ホームページ

<http://www.izumooyashiro.or.jp/>

<http://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1443770396262/index.html>

<https://www.izumo-kankou.gr.jp/676>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/出雲大社>

